

AGU NEWS No.41

青山学院大学

AGUニュース第41号
[2008年4月～5月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス・学位授与式風景

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

伊藤学長と本年度卒業生との特別座談会 4年間の学生生活を振り返って

AGU TOPIC

秋光 純教授が“2008 James C.McGroddy Prize for New Materials”を受賞
小林 保彦教授が、第27回「東京広告協会 白川忍賞」を受賞
本学発のベンチャー企業「青山モータードライブテクノロジー」— 林 洋一教授 —
「AGDマテリアル株式会社」を青山学院が設立 — 澤邊 厚仁教授 —

TOPICS

進路・就職支援活動について

報告・お知らせ

会計プロフェッション研究センター第2回公開シンポジウム
2008年度 学年初頭行事について(抜粋)
卒業生へのメッセージ
アドバイザー・グループに入ろう!

誌上公開講座

青山スタンダード 情報スキルI
学生同士が教え合う全員参加型プログラムにチャレンジ

INFORMATION

2008年度 公開講座
2008年度 オープンキャンパス等開催日程

特集

私たちが“青学”を選んだ理由

長谷川 本日は、お忙しいなかお集まりいただき、本当にありがとうございます。早速ですが、卒業記念の「特別座談会」を始めたいと思います。司会進行は、広報委員の理工学部長谷川が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。はじめに、伊藤学長から卒業生たちへの祝辞をいただけますでしょうか。

伊藤 みなさん、ご卒業おめでとうございます。これから社会へと巣立ち、またはさらなる研究に取り組まれるなど、それぞれの場所で個々の力を大いに発揮されることと思います。本学で身につけたことをしっかりと生かし、卒業後も頑張っていたただけなことと確信しております。今日



は学生生活をもう一度じっくりと振り返っていただき、いろいろなお話をお聞きできることが楽しみです。よろしく願います。

長谷川 では、まず学生のみなさんには、大学入学当時を思い出していただきましょう。西村さんはなぜ大学進学時に本学を選んだのですか。

西村 高校時代にアメリカに留学した経験があり、大学でも英語をしっかりと勉強したかったので、「英語の青山」のイメージに魅かれて選びました。また、もう一度留学してみたい気持ちもあったので、大学紹介パンフレットで留学の制度や協定校が充実していることを知ったことも大きなポイントでした。

長谷川 実際に西村さんはアメリカへの留学を経験されていますよね。

西村 はい。3年生の秋から4年生の春に

4年間の学生生活を

振り返って

春は、新しい出会いと別れが交錯する季節。ここ青山学院大学でも、希望に満ちた表情を浮かべる新入生を迎え入れる一方で、多くの卒業生たちが本学を巣立ち、それぞれの新しい道を歩んでいきます。今回は、各学部から1名ずつ、卒業を前にした計6名の学生に集まっていたいただき、伊藤学長とともに「特別座談会」を実施。現在の心境、および学生生活の思い出などを大いに語っていただきました。



伊藤 定良
学長

長谷川 美貴
理工学部専任講師
広報委員



西村 美希子
文学部英米文学科

2006年9月から2007年6月までの9ヶ月間、本学の交換留学制度によってアメリカのワシントン大学に留学し、自身の見聞を広げた。卒業後は学校職員として勤務する。



丸山 博史
経済学部経済学科

中村まづるゼミに所属。2006年11月の公共選択学会第9回「学生の集い」の論文報告会では、チームリーダーを務め、最優秀ゼミ賞を獲得。卒業後は保険会社に総合職員として勤務する。

かけて9ヶ月間、シアトルのワシントン大学に留学しました。そこでは、いろいろな国の人や文化と出会って、自分の視野を広げることができました。私の4年間の大学生活のなかで最も大きな経験だったと思います。

長谷川 続いて丸山くんが本学を選んだ理由は何かでしたか。



丸山 僕も「英語の青山」のフレーズは大きなポイントでしたね。入学してみると期待通りで、通常授業以外でも英語を学べる環境がありました。外国人教員や留学生たちと気軽に交流できる機会があったり、TOEICなどの資格対策に使えるポータルサイトがあったりなど、期待を裏切らなかつたですね。

長谷川 五十嵐さんはいかがですか。

五十嵐 実は私も「英語の青山」がポイントでした。

長谷川 みなさん英語ですね(笑)。

五十嵐 ただし私の場合は、期待通りなことと期待外れだったことの両方ありました。まず良かったのは、法学部で学ぶうえで、法学に特化した専門用語などを学べる英語の授

業があったこと。これは「さすが」だと思いました。逆に残念だったのは、取りたい英語関連の科目が多すぎて、履修の関係上泣く泣くあきらめた科目があったことです。もう少し自由度が高ければよかったのですが…。

長谷川 続いて中野くんはなぜ本学を志望したのでしょうか。

中野 僕は中学時代はソフトテニス部でしたが、高校では部活に所属せず、少し物足りなさを感じていました。それで大学では何か夢中になれるものを見つけて、思い切りクラブ活動に打ち込みたいと考えていたんです。青山学院大学はクラブやサークルの活動が活発なイメージがありましたし、文化系でも体育系でも何を選んでも本気で取り組める環境があると思いました。

長谷川 それでアナウンス研究会に入られたんですね。

中野 はい。人前で話せる技術を身につけられれば、将来の役に立つと思って選びました。

長谷川 広瀬くんは、やはりバスケットボールに打ち込める環境が決め手ですか。

広瀬 そうですね。体育館など練習施設も

充実していますし、指導力に優れた監督、コーチもいらっしゃいますし、思い切りバスケットができると思いました。それと僕も英語には興味がありました。社会に出てからもバスケットは続けるつもりですし、世界と戦うためには語学力も必要だと感じているからです。

長谷川 まさに文武両道ですね。では、大井さんの入学の理由を聞かせてください。

大井 大学では理工学部で研究に没頭したいと考えていたので、実験や研究のための設備環境を確かめるために、いろいろな大学を見学しました。そのなかで相模原キャンパスの施設設備や研究支援体制がとても充実していたので、青学に決めました。オープンキャンパスで青学を訪ねたときに「ここで勉強したい!」と勉強する意欲が湧いたことを覚えています。

伊藤 みなさん高い理想を抱いて入学されたことがわかりますね。とくに「英語の青山」に対する思いが強いことが印象的です。これからも「英語の青山」のフレーズに恥じない教育体制を維持していくことは重要ですね。

五十嵐 初音

法学部法学科

法学部の西澤宗英教授のアド・グル「青山学院大学ローターアクト・クラブ」の設立に尽力。初代会長を務め、積極的な活動を展開した。卒業後は法科大学院に進み、弁護士をめざす。



中野 慶

経営学部経営学科

アナウンス研究会に所属。オープンキャンパスの「在学生による合格体験トークライブ」で、2年連続経営学部のパネラーを務める。卒業後は地元に戻り、銀行で働く。



広瀬 健太

国際政治経済学部国際経済学科

男子バスケットボール部主将。2007年12月の第59回全日本学生バスケットボール選手権大会では、7年ぶり2度目の日本一を達成した。卒業後は大手電器メーカーに入社し、実業団でプレーを続ける。



大井 彩恵子

理工学部化学・生命科学科

遺伝子科学研究室(降旗千恵教授)に所属し、主に「発がん」に関する研究に取り組む。卒業後は、本学大学院理工学研究科生命科学コースに進学し、研究テーマへの追究を続ける。

学生時代に「頑張った」と胸を張って言えること

長谷川 では、みなさんが青山学院大学での4年間で、それぞれに活躍されたことを詳しくお聞きしたいと思います。最近の話題から取り上げれば、広瀬主将率いる男子バスケットボール部が、昨年12月の全日本選手権で優勝、日本一になりました。しかも広瀬くんは大会のMVPにも選ばれています。

一同 おお～。

広瀬 MVPはおまけです(笑)。でも日本一になって、あらためて感じたことですが、やはりこれまでの先輩方が引き継いでこられた“伝統”があったからこそ勝てたんだと思います。

伊藤 今年のチームは、飛び抜けたエースがいらない代わりに、全員で攻めて、守れるチームだとお聞きしましたが…。

広瀬 そうですね。これは長谷川健志監督

の方針でもありますが、選手全員が平均して得点を取れ、ディフェンスもできるメンバーが揃いました。控えのメンバーも含めた総合力で勝負できるチームでした。

伊藤 そんな日本一のチームをまとめる主将も大変だったでしょうね。先程、伝統という言葉もありましたが、とくに後輩たちへの指導などはどのような点を心掛けましたか。

広瀬 あれこれ指導するというのはあまりないですね。自分を含めた最上級生が普段から力を抜かず全力で練習



に取り組んでいれば、後輩たちはその姿を見て、自分で何かを感じ取ってくれているはず。とくに言葉をかけなくても、しっかりとコミュニケーションは取れています。

長谷川 なるほど。その辺りが強さの秘訣ですね。クラブ、サークルのつながりであれば、中野くんもアナウンス研究会で活躍されました。研究会での活動を振り返っていかがですか。

中野 何より人前で話すことに対する苦手意識がまったくなくなりました。オープンキャンパスでは、2年続けて「在学生による合格体験トークライブ」でたくさんの受験生の前でパネルを務めるなどしましたが、緊張することもなく、逆に高校生に自分の意見が参考になっているのかな、と考えるゆとりもありました。また、アナウンス研究会では、年に数回「番組発表会」といって、自分たちでひとつの番組を作り上げて発表する機会があります。映像作品とは違い、生放送が基本なので、間違えることが許されないプレッシャーも相当なもの。根性が据わるというか、精神面での成長も得られます。

長谷川 学生だけで番組を作るのは大変そうですね。



中野 もちろんスムーズに行かない点もあります。でも番組制作を進めていく過程で、“自分がやらなければ”というリーダーシップも自然と芽生えてきます。とてもいい経験になりましたね。

長谷川 五十嵐さんは、地域や社会への貢献を目的とする「青山学院大学ローターアクト・クラブ」を立ち上げられましたね。

五十嵐 高校時代にも海外からの留学生のサポートを行うなどのボランティアをしてい

ました。大学生になったときに、高校生より時間的にも経済的にも余裕があるはずの大学生なのに、あまり社会貢献するような機会がないなあ、と考えていました。そんなときに東京渋谷ロータリークラブの創設メンバーでもある西澤宗英先生と偶然お話しする機会に恵まれ、ロータリー活動の話で盛り上がり、西澤アド・グルでの「青山学院大学ローターアクト・クラブ」が結成される流れとなったのです。学内割りばし削減プロジェクトをはじめ、具体的な取り組みもいくつか実行することができました。

長谷川 多くの仲間も集まったんですね。

五十嵐 はい。想像以上に多くの人に賛同していただき、最終的には25名を超える会員が集まりました。何よりうれしいのは、私の強い思いで立ち上げたクラブに対し、私同様に強い思いで取り組んでくれる後輩たちに出会えたことです。私が卒業した後も引き続き活動が続いていくことはとてもうれしいです。



長谷川 丸山くんは、中村まづる先生のゼミでの活動を通じて、「公共選択学会」に参加して、見事最優秀賞に輝いています。

丸山 この大会は与えられたテーマに対して、自分たちの考えを論文として形にするとともに、プレゼンテーションを行うものですが、私はこの大会を通じて「伝える力」がいかに重要であるのかを実感しました。プレゼンテーションでは相手を納得させることが大切で、そのためにはわかりやすく自分たちの意見を述べ、相手に理解してもらう必要があります。私のチームは論文をまとめる段階から、どうすればわかりやすく効率的に伝えることができるのかを意識し、意見交換をしていくなかで、お互いの認識のズレなどを減らし、チームとしてひとつの考えに沿った論文を作ることができました。また当日のプレゼンテーションでも相手を意識した伝え方のおかげで最優秀賞を受賞できたと思います。

実はひとつ下の後輩たちも、昨年の同大会で最優秀賞を獲得し、2連覇を達成できました。自分たちが伝えたノウハウや経験が、彼らに少しでも役立っていたと思ううれしく思います。また彼らが、彼ら自身の経験を下の代にさらに伝えていってもらえたらと思います。

伊藤 先ほど、広瀬くんからもバスケットボール部の伝統という話がありましたし、五十嵐さんもローターアクト・クラブを引き継いでくれる後輩がいる喜びとの話もありました。青学のなかで、毎年さまざまな“伝統”が伝えられているんですね。素晴らしいことだと思います。

長谷川 西村さんと大井さんは、自分が勉強したいことに夢中で取り組んだという点では共通した部分があるかもしれません。西村さんは、やはり留学を通じて学んだことが多くあったでしょうね。

西村 はい。ただ英語を勉強するだけなら日本国内でもできますが、実際にアメリカに行ってみる体験は、日本で勉強する何倍も刺激的で、最高の“勉強”だと思います。自分で想像していた以上に、知らない世界が広がっていて、9ヶ月間ワシントン大学に通っただけで、そう思えるのですから、機会があれば、もっといろいろな国を旅して、いろいろな人や文化と触れ合ってみたいですね。

長谷川 大井さんはいま、生命科学に一所懸命に取り組んでいますね。

大井 今は「疾患と遺伝子」について、なかでも主に「がん」の研究に取り組んでいます。大学に入学したころは、



化学を専門にするつもりだったのですが、幅広く学んでいるうちに「遺伝子」の研究と出会い、遺伝子の持つ性質の不思議さに魅せられてしまいました。自分が「追究したい!」と思える研究テーマに出合えて、青学に来てよかったなと思っています。

4年間の
学生生活を振り返って



於 青山キャンパス学長室

4年間在籍して見えた青学の特色とは？

長谷川 みなさんが青山学院大学を舞台に、それぞれ夢中になれることを見つけ、思い切り取り組んで来られたことがよくわかりました。さて、4年間の大学生活を振り返り、良い面、また悪い面も含めて、本学についての率直な意見を聞かせていただけますか。

伊藤 それはぜひとも聞かせていただきたいですね。みなさんが卒業された後も、よりよい大学づくりに取り組み、みなさんが胸を張って母校を誇れるようにしていく必要がありますから。

長谷川 そうですね。卒業を目前にした皆さんの本学に対する印象はいかがでしょう。

西村 教員、職員、学生ともに、本当に多様な人が集まっている大学だと思います。いろいろな出会いに溢れていますし、私もアメリカに留学していましたが、逆に海外から来た留学生と友達になることもできました。

中野 いろいろな人がいるというのは、僕も同じ意見です。アナウンス研究会で積極的に人と交流していたこともありますが、4年間、人との出会いの連続で、飽きることはなかったですね。

丸山 あと先生方が学生の意見に対して、とても理解を示して下さる印象がありました。



僕たちの「こんなことをしてみたい、こういう風に変えたい」という意見に真剣に耳を傾け、支えてくださいました。

五十嵐 そうですね。こちらが望んだことに、

教職員の方々がしっかり対応して下さることは私も感じました。

大井 結局は、学生が「自分で行動しよう」という積極的な姿勢が大切なんだと思います。高校までのように習うだけの勉強ではなく、学生の方からアクションを起こして学ぶことが重要。そういう意欲には、先生方も真剣に伝えてくださいます。



西村 せっかくいろいろな人と出会えるチャンスがあるのに、積極的に動かないと、そんなチャンスを得られない

まま終わってしまうかもしれません。それではもったいないと思います。

中野 そういう意味でもクラブやサークル活動に参加することは、学部・学科の枠を超えて、多くの人と知り合える最適な場だと思いますね。

広瀬 確かに部活にも個性的な仲間が集まりますが、僕は「青山スタンダード」で、多くの“発見”がありました。学部・学科関係なく、いろいろな人が集まることで、自分とは異なる考え方を聞くことができ新鮮でした。

大井 私も青山スタンダードでは、理系以外の人と話をすることで多くの刺激を受けました。青山スタンダードの授業がなければ、理工学部のなかだけという狭い世界だけで過ごしていたかもしれません。

広瀬 ただできれば、青山スタンダードもフレッシャーズ・セミナーのように、もう少し少人数で取り組めれば、より深く多くの人たち

と関わりあえたかなと思います。

伊藤 私自身、今後の青山学院大学においては、青山スタンダードの在り方が、一番のポイントだと感じています。比較的好意的な意見が多く寄せられている青山スタンダードだからこそ、教養教育の具体的展開として、また専門教育の基盤として、よりよい形に整備していきたい。学長として妥協せずに取り組んでいきたいですね。

長谷川 せっかく盛り上がりが出てきたところですが、あっという間に時間が来てしまいました。まだまだお話を聞きたいところなのに残念です。では最後に、伊藤学長に今後の青山学院大学のヴィジョンをお聞きして、本日の座談会を締めくりたいと思います。伊藤学長、よろしくをお願いします。

伊藤 私は青山学院大学は、本学のことだけを考えていればよいというレベルの大学ではないと認識しています。教育と研究とのバランスのよい関係を保ちつつ、学部間、さらには産学官で密な連携を取り、知の共同体として社会に貢献していくことが“使命”だと思うのです。その使命を実現していくためには、今日集まっていた6名をはじめ、多くの卒業生の力が必要になってきます。ぜひとも卒業後も、積極的に本学と関わりを持っていただき、ともに青山学院大学の未来を支え合っていければ本当にうれしいことです。よろしく願いいたします。

長谷川 本日はみなさん本当にありがとうございました。卒業後のみなさんのご活躍を心よりお祈りしております。



物理・数理学科 秋光 純教授が、権威あるアメリカ物理学会の “2008 James C.McGroddy Prize for New Materials” を受賞



理工学部物理・数理学科
秋光 純 教授

アメリカ物理学会 (America Physical Society) では毎年、顕著な研究成果を挙げた研究者に賞を贈り、その功績を讃えています。そして今年、理工学部物理・数理学科 秋光純教授が、「金属系化合物における種々の高温超伝導体の発見」の功績が認められ、“2008 James C.McGroddy Prize for New Materials” を受賞されました。同賞の歴代受賞者には、ノーベル賞を取った学者も多く名前を連ねるほど権威ある賞で、秋光教授の今後にも大きな注

目が集まります。受賞の喜びの声、および今後の抱負について秋光教授にお話をお聞きました。

私 が研究を続けている超伝導とは、その物質がある温度になると電気抵抗がまったくない“0”の状態になることを言います。この技術を用いた例としては、開発が進むリニアモーターカーが最も有名ですが、その他にもMRIや心磁図・脳波図測定などの医療技術、電力貯蔵システムや送電システムなどのエネルギー技術など、すでに活用されているものや研究中のものを含めて多岐にわたります。20世紀は「半導体の時代」と呼ばれましたが、21世紀は「超伝導の時代」と呼ばれるようになると思われれます。

超伝導 は、非常に低い温度でなければ発生しない現象です。そのため少しでも高い温度で臨界点に達する素材の発見が研究者たちのテーマ

となりました。英国の科学雑誌『Nature』に、私の「二ホウ化マグネシウムにおける39Kの超伝導」の論文が掲載されたのは2001年の春のことです。金属では27年振りの高温超伝導体の発見であり、しかもそれまでの20K(ケルビン)から大きく前進したということで、あのときも世界中から高い評価をいただきました。その後いくつかの超伝導体を発見してきたことが、今回のアメリカ物理学会からの受賞につながったのではないかと考えております。

大きな賞をいただいたことは素直にうれしく思いますが、だからといってこれまでの研究の何かが変わるわけではありません。あくまでも賞は“過去”の実績に対する評価です。常に未来を見続けることが科学者であり、物理学者。その都度、現状に満足してはいけなないとの思いが強くなります。高い評価を受けた39Kの高温超伝導体にしても、摂氏で言えば-234度。超伝導の世界は、まだまだ一般の方々から想像からは遠いところで研究が続けられているのです。

これは私の夢であり、また人類の夢でもあります。いつか室温で臨界温度に達する超伝導の新材料をぜひ発見してみたいと思っています。まさに夢のような話だと感じる人もいるでしょうが、私自身は絶対どこかにあると信じています。どこか冒険家にも似た思いとでも言えそうですね。しかし、こうして研究を続けられるのも、大学側の理解とサポート、そして一緒に研究に取り組む学生たちの情熱があってこそです。「研究」と“教育”は結び付かなければ意味がない」が、私のモットー。これからも学生たちの成長を見守りながら、ともに夢を追いかけていきたいと思います。



経営学部 小林 保彦教授が、広告界で栄誉ある 第27回「東京広告協会 白川忍賞」を受賞



経営学部
小林 保彦 教授

「広告」「マーケティング」「コミュニケーション」を専門分野とする経営学部 小林保彦教授が、広告界で栄誉ある賞とされる、第27回(平成20年)「東京広告協会 白川忍賞」を受賞されました。昭和57年に制定された「白川忍賞」は、東京広告協会(当時は日本広告会)の初代理事長を務めた故白川忍氏(資生堂宣伝普及部長、同常務理事等歴任)の広告界における卓越した業績を讃えて、毎年広告の発展

向上に貢献した企業や個人に贈られるものです。これまでの受賞者には、広告の送り手である大手広告会社や、スポンサーである大企業などが名を連ねていますが、個人で受賞する人は少なく、小林教授の広告界への貢献度の高さをうかがい知ることができます。今回は、小林教授に受賞の声をお聞きするとともに、「広告」に対する思いを語っていただきました。

広告に携わる人間にとって「白川忍賞」はとてつもない権威のある賞ですから、受賞の知らせを聞いたときは「私でよいのだろうか」と思いました。日頃の研究が受賞の対象になるとは思っていませんでしたので、正直なところ実感が湧かないのですが、今回の受賞をとりわけ広告業界で活躍しているゼミの卒業生たちが喜んでくれたので、私も素直に喜びたいと思います。東京広告協会からの受賞理由には「青山学院大学教授として、

これまでに数多くの優秀な人材を育成、輩出したこと」や「日本広告学会会長として、日本の広告・マーケティングの発展と向上に尽力していること」などが挙げられていて、あらためて身の引き締まる思いです。

私の持論ですが、広告はその国の文化そのものと言えます。例えばアメリカでは「損得」を重視するため、広告でもひたすら商品の利点を売り込むという直接的な表現が多く見受けられます。一方日本では社会に受け入れられることを重視するため、企業や商品に親しみを覚えさせるような表現が多く用いられます。商品を買えと繰り返すのではなく、売り手と買い手を精神的に結びつけるための土壌作りからはじめるのです。このように広告の特徴からその国の特徴がわかり、その国の特徴を知ることによってその国の広告を理解することができます。日本の広告は他の国と比較して多様な機能と要素を含んでいます。それは日本という国の内容の豊かさを物語っているとも言えます。

今回の受賞を機に、今後ますます日本の広告の素晴らしさを世界に伝えられるように尽力したいと考えています。また情報が氾濫する現代において「適正な広告とは何か」「フェアな広告とは何か」といったテーマにも積極的に取り組んでゆきたいと思えます。これからの日本の広告業界をさらに活性化させてゆくには、若い力が不可欠です。広告業界はとてつもない幅広い視野が求められる業界なので、私のゼミでも学生たちの好奇心を常に刺激し、広告界のいろいろな場所で活躍できる人材を育てていきたいと思います。



研究を事業へ、そして事業を教育へ——。

本学発のベンチャー企業「青山モータードライブテクノロジー」



理工学部電気電子工学科
林 洋一 教授
(有)青山モータードライブテクノロジー社長

青山学院大学発のベンチャー企業として2006年3月に設立された「有限会社青山モータードライブテクノロジー」。ソーラーカーの研究でも知られる理工学部電気電子工学科 林洋一教授が社長を務め、専門のパワーエレクトロニクス分野の研究を“事業”に活かしつつ、その活動の幅も徐々に広がってきました。2007年4月には2名の社員が加わり、さらに体制を充実。会社を軌道に乗せるべく積極的な活動を続ける林洋一社長に、会社設立の経緯、そして今後の目標についてお話をお聞きしました。

もともとは中国で販売されるエアコン向けに、省エネ・低コストのモーター制御システムを開発したことが、“研究”を“事業”と捉えるきっかけでした。その後、ソーラーカーの研究で交流のあった機械メーカーから風力発電システムの開発の依頼をいただいたり、国内向けの医療用小型コンプレッサ駆動システムのリニューアル計画に関わったりなど、研究・開発の依頼が増加し、少しでも多くの要望に応えようと「青山モータードライブテクノロジー」を設立する運びとなったのです。大学のままでどうしても“研究”のイメージが先行して、依頼主に“仕事”と考えていただきにくい部分があります。そこで会社を立ち上げることで、依頼主と企業同士のお付き合いをできるようにしたのです。

大小の工場が点在する相模原キャンパスの周辺には、日頃の研究活動を通じて交流のある企業も多くあります。そんな地元の企業から「こういうことをやりたいけれど、システムの作り方がわからない」と、相談を受けることがこれまでも度々ありました。会社を設立してからは、依頼主からお話をうかがい、我々が協力できる内容であれば、地域貢献のためにも積極的にシステムの開発に取り組んでいます。モーター制御に関するソフト開発が弊社の基本事業ですが、そのソフトが実際に活用できるかどうかの動作環境を確認するには、システム全体まで構築することが必要です。結局はソフトの開発からハードの試作、製品化、そしてメンテナンス業務まで、トータルでのお付き合いとなる場合が多いですね。

我々の会社は一般企業と違い、「会社を大きくしよう」とか「利益を追求しよう」といったことが最終目的ではありません。母体となるのは、あくまでも大学での研究活動ですから、会社を軌道に乗せることができたなら、事業と研究とをうまく連動させて、学生たちへの教育にも還元していきたいと考えています。例えば学生をアルバイトで雇い、製品開発のプロジェクトなどに関わってもらえば、学生は大学の授業だけでは得られない貴重な体験ができるはず。未来を担うべき優れた技術者が足りないと言われるパワーエレクトロニクスの分野において、即戦力の技能を身につけた多くの学生を社会に輩出していきたいですね。今から夢は大きく膨らんでいます。



単結晶ダイヤモンド基板の製品化を目指す

「AGDマテリアル株式会社」を青山学院が設立。



理工学部電気電子工学科
澤邊 厚仁 教授
AGDマテリアル株式会社
代表取締役社長

理工学部電気電子工学科 澤邊厚仁教授の結晶工学研究室では、プラズマCVD法を用いたダイヤモンド薄膜の製造に関する研究に取り組んでおり、近年、直径1インチの自立膜製造にも成功しています。学校法人青山学院では、この技術を応用した大面積・高品質の単結晶ダイヤモンド基板を製品化することを目指し、2007年10月29日にハイテクベンチャー企業「AGDマテリアル株式会社」を設立し、澤邊教授が代表取締役社長に就任しました。

今回は澤邊厚仁社長に、ダイヤモンド基板の製品化がもたらす業界への影響、および会社の役割などについてお話をお聞きしました。

大面積・高品質な単結晶ダイヤモンド基板を製品化するためには、大学の研究室だけではなく、企業レベルでの本格的な取り組みが必要となります。その企業をどうするのが問題ですが、考えられる選択肢はふたつ。ひとつは我々の技術をどこかの企業にお預けて製品化してもらうか、もうひとつは、我々自身が会社を立ち上げて製品化するかです。熟考した結果、世の中に製品と呼べる基板が存在しない以上、応用を含めた大きなビジネスとしては成立しづらく、現段階では企業による対応は難しいと判断しました。そこで青山学院が中心となり、大学教員や企業からの共同出資を受ける形で「AGDマテリアル株式会社」を設立したのです。弊社の役割は、もちろん単結晶ダイヤモンド基板の製品化です。しかし、それ以上に期待していることがあります。それは、基板が形になることでさまざまなデバイスの開発が実現したり、新しいコンセプトの製品が生まれたりなど、ダイヤモンド産業が注目を浴び、活気づくようになることです。

ダイヤモンドはその硬さ以外にも、熱を通しやすい、半導体としての高いポテンシャル、化学的安定性など、魅力的な特色を数多く備えており、走査トンネル電子顕微鏡用探針、放射線検出センサなど数多くの最先端機器への応用も期待されています。そんな業界の活性化への貢献も我々の大きな目的のひとつなのです。現在のところ、2008年後半には基板のサンプルを出荷し、2009年に製品化できればと計画中であり、何とか実現できるのではないかと手応えを感じているところです。

会社を設立し、社長に就任したからといって、大学での研究を疎かにしては意味がありません。会社と研究室とをうまく両立させることによって、それぞれに相乗効果を生み出したいと考えています。製品開発を会社が担うことになれば、大きな負担のなくなった研究室では、品質の追求やデバイスの応用など、より基本に戻った研究をじっくりと進められるようになります。また、学生も最先端の製品開発について、研究室だけでなく企業として取り組みを身近に感じることができるはず。そういう意味では、早く会社の方を独り立ちさせないといけませんね。基板の製品化を実現させて、研究室から「実験に使うので基板を安く譲ってください」と、依頼が来るようにしないと(笑)。

なお、今回の起業においては、トーマダイヤ(株)、セキテクノロン(株)、並木精密宝石(株)に、多大なご協力をいただきました。トーマダイヤ(株)は、高温高压ダイヤモンド合成の日本におけるパイオニアであり、豊富な技術の蓄積を持っています。また、セキテクノロン(株)は、ダイヤモンド薄膜作製装置のトップメーカーです。並木精密宝石(株)は、ダイヤモンドなど宝石の精密加工に関しては、世界最高の技術を持つ会社です。これら高度なオリジナル技術を持つ企業と、今後も協力しあいながら、単結晶ダイヤモンド基板の製品化に向けて、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

青山学院大学の進路・就職支援活動について



仁科 貞文
就職部長
文学部心理学科教授

就職活動時期を迎える学生にとって、その年の経済状況や企業の採用意欲が、就職活動の難しさや成果に大きく影響してきます。その点で、2007年度に就職活動期を迎えた3年生、4年生は非常に恵まれていたと言えます。2007年3月卒業生の進路決定率（就職と進学を合わせた数値）や就職率は、ここ10年間の中では最も高い水準を示しています。（図1）

毎年、就職支援活動シーズンは3年生後期（9月）から本格的に始まりますが、この時期に就職希望者を集めて「就職ガイダンス」を行っています。この催しの際に「青山学院大学の就職支援活動の特長」として、下記のような4点を紹介しています。

1) 永年蓄積された就職支援行事のノウハウ

過去10年間ほどの就職氷河期の際に、学生はもちろんのこと、進路・就職センター側も対応策に苦労を重ねてきた結果、その経験がノウハウとして蓄積され、2007年に実施された就職活動支援行事は、永年改良を重ねてきた企画内容や手順が結実したものです。例えば、ガイダンスで配布される就職ガイドブックは、携帯可能なマニュアル「Ash (Aoyamagakuin-Shuushoku-Handbook)」と資料集的な「就活スタンダード」の2冊構成となっており、就職活動をする学生の情報ニーズや利用形態に合わせて、内容が改訂、編集されています。また、100種類ほどの就職支援行事は、各行事終了時の参加者アンケートに基づいて、次年度以降の行事メニュー、実施時期、実施回数や想定参加人数が設定されています。今年度のように、就職状況が好転してくると学生側にも就職活動に対する意欲や進路選択の考え方に変化が見られるので、それに対応したさらなる調整が必要になってきます。

2) 顔の見える就職支援活動

進路就職活動では、学生一人ひとりによって、必要とする情報やアドバイスの内容が異なり、学生個人ごとでカスタマイズされた情報提供が必要とされます。青山学院大学では、年間に5000件を超過する個別就職相談が行われて、これは就職活動に参加する学生数が1学年で約3000名未満の規模だからこそ実施可能な支援活動です。相談目的は時期によって異なり、同じ学生の相談内容の履歴に応じてそれぞれの時期に必要な情報やアドバイスが行われています。昨今は、一般的な就職情報は、インターネットの就職サイトでも入手可能になっていますが、個別事情に合わせた就職相談は、進路選択の悩みを抱えた学生に対する、一種のカウンセリング作業となっています。

3) OB・OGからの支援

青山学院大学の特長である先輩後輩の絆の強さが、就職活動においても重要な要素となっています。就職活動には欠かせないOB・OG訪問は、個人情報保護法の影響で在職OB・OG探しが難しくなっていますが、先輩達の自発的な協力申し出によって運営が可能となっています。OB・OGによる

各種業界紹介は、先輩後輩の間柄ならではの企業人の本音の情報が聴かれる機会です。例えば、青学生に人気のマスコミ業界では、OB会（マスコミ青山会）の自主企画による密度の濃い業界説明会が催されています。また、企業で実際に採用面接を担当しているOB・OGが実施する模擬面接会は、毎年多数の参加希望者があり、「実践的だ」として非常に人気がある行事となっています。

別な面でのOB・OGから在学学生に向けた支援は、青学卒業生の社会での活躍実績です。各業界での青学卒業生の永年の実績が、採用担当者の青学生に対する「国際感覚、都会的センス、協調性、誠実」などの期待イメージになり、また新規採用者の人たちの活躍が、次の年度の青山学院大学への求人申込みに反映されています（年間求人 人文・社会科学系学部 約5000件）。

4) キャンパスロケーション

これは就職支援活動そのものではありませんが、就職活動中の学生にとって、青山キャンパスのある渋谷・表参道というロケーションは、他の大学生から羨ましがられる隠れた資産になっています。「定期券で就職活動が可能な大学」「授業の合間に会社訪問ができる大学」のうたい文句の通り、実際に4月、5月の時期にはリクルートスーツを着用して授業を受けている4年生が目立ち、その結果、青学生の場合は、他大学生には不可能な件数のOB・OG訪問や会社説明会参加が可能で、受験機会が広がっています。また、採用活動が早期化、長期化する傾向の中でも、学業と就職活動の両立が可能な環境条件にあると言えます。

逆に企業の採用担当者側にとっても、都心にある本学のキャンパスへの訪問や、説明会の実施は容易であるため、他大学にない企業数や回数の学内企業説明会が行われています。

このような恵まれた就職環境を大いに活用して、2008年度も学生たちがより納得のいく成果を上げられるように、進路・就職センターでは、企業の変化、学生ニーズの変化に対応しながら、よりよい就職支援活動を行っていきたいと考えています。

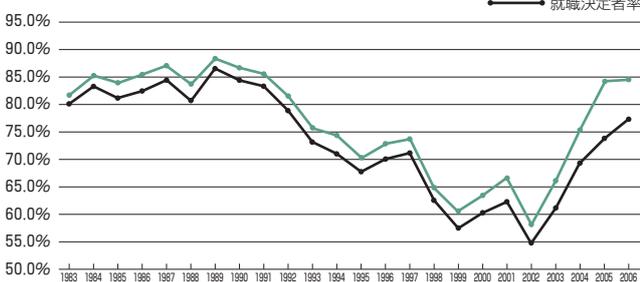
過去3年就職者数 上位20社 (2004~2006年度)

| 人文・社会科学系 (男子) | | | |
|----------------|------|---------------------------|------|
| 企業名 | 就職者数 | 企業名 | 就職者数 |
| (株) みずほ銀行 | 29 | (株) セブーン・イレブン・ジャパン | 14 |
| 日興コーディアル証券 (株) | 29 | 三井住友海上火災保険 (株) | 13 |
| ソフトバンクBB (株) | 23 | (株) 横浜銀行 | 13 |
| (株) 三井住友銀行 | 21 | アメリカファミリーアッシュアリスカバニャーオポロバ | 12 |
| 警視庁 | 21 | (株) インテリジェンス | 12 |
| 三菱UFJ証券 (株) | 20 | 新光証券 (株) | 12 |
| (株) 三菱東京UFJ銀行 | 19 | (株) 大塚商会 | 12 |
| 大和証券 (株) | 16 | 東急リパブル (株) | 12 |
| 積水ハウス (株) | 16 | 富士通 (株) | 11 |
| 東京都小学校 | 15 | 東日本電信電話 (株) | 11 |

| 人文・社会科学系 (女子) | | | |
|----------------|------|---------------------------|------|
| 企業名 | 就職者数 | 企業名 | 就職者数 |
| (株) 三菱東京UFJ銀行 | 107 | 大和証券 (株) | 26 |
| (株) みずほ銀行 | 90 | アメリカファミリーアッシュアリスカバニャーオポロバ | 26 |
| 東京都小学校 | 71 | (株) 日本航空インターナショナル | 26 |
| (株) 三井住友銀行 | 67 | 神奈川県小学校 | 25 |
| 東京海上日動火災保険 (株) | 58 | ソフトバンクBB (株) | 24 |
| (株) 損害保険ジャパン | 47 | 三菱UFJ信託銀行 (株) | 22 |
| 全日本空輸 (株) | 42 | (株) ジェーシービー | 21 |
| 三井住友海上火災保険 (株) | 31 | (株) エイチ・アイ・エス | 20 |
| 日本興亜損害保険 (株) | 31 | (株) ノヴァ | 20 |
| 日本生命保険 (相) | 29 | 野村證券 (株) | 19 |

| 理工学部、理工学研究科 (男子・女子合計) | | | |
|-----------------------|------|--------------------|------|
| 企業名 | 就職者数 | 企業名 | 就職者数 |
| キヤノン (株) | 32 | カシオ計算機 (株) | 10 |
| (株) 日立製作所 | 27 | 大日本印刷 (株) | 10 |
| 本田技研工業 (株) | 23 | 日本ビュレット・バックカード (株) | 10 |
| ヤフー (株) | 18 | (株) 大和総研 | 9 |
| (株) オービック | 17 | (株) 東芝 | 9 |
| 日本電気 (株) | 17 | 日産自動車 (株) | 9 |
| トヨタ自動車 (株) | 15 | 日本アイ・ビー・エム (株) | 9 |
| (株) リコー | 14 | 東日本電信電話 (株) | 9 |
| (株) NTTデータ | 12 | 富士ゼロックス (株) | 9 |
| NECソフト (株) | 11 | 東日本旅客鉄道 (株) | 8 |

進路決定率推移 (1983~2006)



(図1 青山学院大学の最近の進路決定率、就職決定者率)

Message

就職活動に取り組む青学生のみなさんへ 就職活動は、学生が社会人へと成長するプロセスです



上倉 功
進路・就職センター
事務長

「明日、某社の面接があるのですが、面接の仕方について……」今年1月中旬、3年生の相談内容です。訊けば志望企業の予定はずっと先とのこと。その後、定期試験期間中も数名この種の相談に応じました。就職・採用の時期が年々早まって、これから定期試験を迎える、あるいは定期試験期間中でも、企業のスケジュールに合わせて動いている様子が見えます。

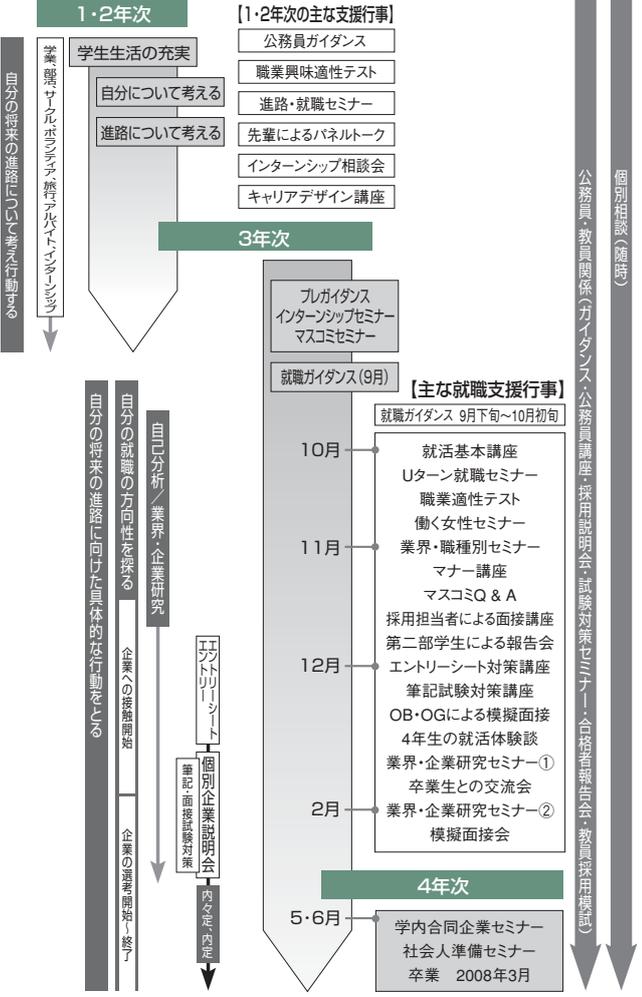
就職活動にはいずれの一方も欠くことのできないうたつたの作業があります。

ひとつ目は自分の将来についての夢や希望、得意なこと活かしたいことなど、自身の将来を描くこと、そしてそれらを実現させるために、広く社会や業界・企業を知って方策を練ることなど。ほとんど机の上でも実行可能な作業といえます。もちろん、友達や肉親との話し合いなども含むのですが。

ふたつ目は実際に企業の内容を見たり、仕事をしている人から話を聞いたり、応募し、試験を受けるといった、脚を使った行動を伴う作業です。この部分を就職活動と称す方も多数いるかと思えます。

両方とも時期に応じて対応するのが望ましく、特に前者は常に見直し、時には方向修正が必要なものもあります。何を優先して取り組む時かを判断するチカラは、社会人に求められる重要な要素です。

進路・就職支援のプロセス 2007年度実績



進路の報告

卒業が決定したみなさんへ 進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)
..... 進路・就職センターへ「進路届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究所)
..... 学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただけます。

キャリア形成支援課外講座

相模原キャンパスでは、2007年度に青山スタンダード課外講座(単位なし)として、1・2年生を対象に下記内容を実施しました。

【自己発見レポート 1・2年生対象】

自分自身の「性格」や現時点での「能力」を知ることは、「行動」や「意識」を望ましい方向に変えていくための基本です。本講座では、目標設定や、目標実現に向けた実力アップのためのきっかけやヒントを提供します。

●適性検査 2007年4月25日(水)実施 ●解説 2007年5月30日(水)実施
※「解説」は、「適性検査」の参加者が対象。

【自己プログレスレポート 2年生対象】

情報分析力や論理的思考能力の基礎スキルなど、社会で必要となる能力のレベルの確認を行うとともに、自らの価値観を見つめ職業選択について考えます。「なりたい自分」に近づくヒントが詰まった講座です。

●適性検査 2007年4月25日(水)実施 ●解説 2007年5月30日(水)実施
※「解説」は、「適性検査」の参加者が対象。

【キャリアデザイン講座Ⅰ・Ⅱ 1・2年生対象】

少人数のグループディスカッションなどを通してコミュニケーション力、思考力を鍛える参加型講座です。キャリアデザイン講座Ⅰでは、自己認識力と行動力、キャリアデザイン講座Ⅱでは、学生生活の反省を通じた目標の再設定や社会で求められる実践力の養成を目的としています。

2007年10月10日(水)～2007年12月12日(水)実施
※毎週水曜日開講。キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡともに全10コマ。

青山学院大学進路就職支援システム(Web Ash)リニューアルオープン

青山学院大学独自の進路・就職情報を提供するオリジナルWebサイトです。本学学生であれば、学内のみならず自宅のパソコンからでも昼夜問わず利用することができます。

本学に送付されてきた求人票や会社説明会情報の検索、学内で開催される支援行事の案内、進路・就職センターや相模原進路グループからのお知らせ等の閲覧ができます。本学独自の情報として、内定者による入社試験記録や卒業生入社実績、欠席者のための支援行事のネット配信など、就職活動の強力なサポートツールとして利用されています。卒業年次学生の進路の報告もWeb上で行うことができます。

2007年10月、新機能を加えリニューアルを行い、さらに見やすく使いやすくなってスタートしました。

《学外からの学生ポータルアクセス法》

青山学院大学HP
<http://www.aoyama.ac.jp/>

学生ポータル入口

学生ポータルの「進路・就職」メニューから「Web Ash」に入ることができます。

「各国大使講演シリーズ」第8回 ジョセフ・キャロン駐日カナダ特命全権大使講演 「互恵関係を築くこれからの日本とカナダ」

各国大使シリーズ講演は、青山学院大学の公開講演会として次第に学外にも知られてきており、今回で第8回目を迎えました。これまで同様、ジャパンタイムズ、毎日新聞社、そして本学との共催、外務省の後援という形をとり、学外からの参加者も招いて2008年1月17日(木)に青山キャンパス総研ビル12階大会議室で開催されました。ジョセフ・キャロン大使は、1972年にカナダ外務省に入られてから多くの重要なポストにつかれ、駐日公使(1994～1998年)と駐中国大使(2001～2005年)を務められたあと、2005年から駐日カナダ特命全権大使を務め、研究者のあいだでも東アジアの専門家として知られています。

伊藤定良学長の挨拶のあと、大使は流暢な日本語で、外交が大学教育に似ているという話から講演を始められました。大使によれば、外交が国家の目的を達成するための戦略や手段として使われるのに対して、教育は学校の理念や目的を実現するためのもので、外交とは違う面もありますが、ともにその対象は人の成長にあり、その運営や範囲は広く考えられるべきである、と。そのうえで、カナダ外交が望んでいるものとして、国際社会の平和と安定、およびカナダへの移民の増加をあげられました。国際社会の平和のためには国連やNATOを介しての国際協力やアフガニスタンでのOEF(不朽の自由作戦)など治安の確保や平和構築活動の重要性をあげられ、これらを展開するうえで、カナダは日本のよいパートナーであるとおっしゃっています。

また、カナダと日本の関係は、例えば日本が輸入する食料の6%、日本のエネルギーの10%がカナダからのウランから、また日本の輸入木材の20%がカナダから入っていることや、逆に日本からの留学生の1割がカナダに学んでいること

が示しているように深いものがあります。他にも、金融、製造業、科学技術の開発、情報・通信面、あるいは農業の近代化などでさらに協力が期待でき、日本とのあいだで速やかにFTA(自由貿易協定)交渉が始まる必要があるとも指摘されました。平和支援など国際安全保障、気候変動などの地球環境問題、また国内での高齢化・少子化問題、労働力不足、そして年金問題などへの対応でも、カナダと日本は共通の基本認識を持っており、これらの問題や分野でもっと協力することが可能です。また、両国が協力することが国際社会の利益にもなり、そうすることで日加関係は今後いっそう発展するでしょう。したがって、カナダは日本ほど優れたパートナーはいないと考えていますと大使は強調されました。

質疑応答では、学外の参加者と本学の学生ら数人から、カナダへの移民、出生率の低下、日加関係を支える国民レベルの交流、イラク問題への対応などについて質問が出され、大使から丁寧な説明がなされてなごやかな雰囲気の中に講演会を終了しました。

本学はバンクーバーにあるカナダの名門プリティッシュ・コロンビア大学と交換留学プログラムをもっており、本学とカナダの大学との交流は今後さらに盛んになるものと思われています。今回のジョセフ・キャロン大使の講演が、カナダと本学とのあいだの教育・学術交流の促進と両国関係のいっそうの発展につながるひとつのきっかけとなることを期待したいと思います。

(副学長 土山 實男 記)

ジョセフ・キャロン駐日カナダ特命全権大使



会計プロフェッション研究センター主催 第2回公開シンポジウム開催

2007年12月22日(土)、青山キャンパス4号館420教室において、会計プロフェッション研究センター主催「第2回公開シンポジウム—公認会計士の試験とその職業について考える—」が開催されました。



脇田 良一氏

第一部では、脇田良一氏(公認会計士・監査審査会常勤委員)による「公認会計士試験実施の改善のポイントについて」と題する記念講演が行われました。

今般の改善の視点は、公認会計士試験が受験しやすく、魅力的となることに置かれており、2008年から実施される改善策は、「短答式試験を週末1日の試験としたこと」「論文式試験について、出題範囲を絞り込んだこと」「新たに会計学、監査論、租税法でも法令基準集を配付すること」「連続する平日1日・週末2日の日程としたこと」などです。また、2010年から実施の方向で検討すべき改善策として、「短答式試験を年2回実施すること」が挙げられました。最後に脇田氏は、多くの人々に試験に挑戦していただきたいと結ばれました。試験実施責任者による最新情報の解説に、皆さん熱心に聞き入っていました。

第二部では、増田宏一氏(日本公認会計士協会会長)、福田眞也氏(証券取引等監視委員会委員)、出縄良人氏(ディー・ブレイン証券社長)、小倉親子氏(エムアンドシー社長)、平林亮子氏(平林公認会計士事務所社長)をパネリストに迎え、本学の金田勇教授をコーディネータに、「各界で活躍する会計士、公認会計士の仕事の魅力を探る!」と題する公開シンポジウムが行われました。増田氏は、2007年7月会長就任以来、公認会計士監査充実のために責任感と使命感を持って会員の監督・指導に邁進されている様子を語られました。福田氏は、公正・公平・透明で健全な市場構築のために尽力されており、「受

験生には、倫理を基本に十分な監査業務経験を積んでいただきたい」と述べられました。

出縄氏は、小規模企業の株式公開に注力されており、「公認会計士資格

は、王道である監査を始め選択の幅が広いので、自分に合った仕事を選んでいただきたい」と述べられました。

コンサルティング業務などを展開されている本学出身の小倉氏は、「資格取得の利点は、性別・年齢に関係なく仕事ができ、時間も自由な点にあり、また、企業の経営者と対等に語り合えるやりがいのある仕事である」点を強調されました。

平林氏は、コンサルティング会社代表として活躍されている他、女性の士業の力を結集して情報発信を行うプロジェクトを立ち上げられたり、多くの著書も出版されています。「公認会計士資格は、女性には、人生の強い力になる便利で頼もしい資格である」と述べられました。

各界で活躍する公認会計士の生の声は感動的で説得力があり、皆さんの仕事の魅力を実感したようでした。

若年層を中心に会場は満席で、公認会計士の資格を目指す会計専門職大学院の学生や公認会計士試験受験希望者にとって、大変有意義な企画となりました。

(会計プロフェッション研究科教授 橋本 尚 記)



第二部 公開シンポジウム

2008年度 学年初頭行事について(抜粋)

授業開始前の行事についてお知らせします。各自、あらかじめ計画して、指定の日時に登校してください。
ここに掲載する行事以外にも重要な行事がありますので、下表の「書類配布」において配布する資料を必ず確認し、行事に出席してください。
(「学生ポータル」で、より詳細な情報を確認することができます)

青山キャンパス

【昼間部】4月2日(水)新4年生 4月3日(木)新3年生 (各学年とも留年者を含む、経済学部は注2参照)

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス | 場所 | 備考 | 学生証更新 | 健康診断(7号館2階音楽室) |
|---------------|-------|----------------|---------|--------|-------------------|---|---|
| 文学部 教育学科 | 12:30 | カウチャー 記念礼拝堂 | 13:00 | 1123教室 | | 4月2日(水)、3日(木)、5日(土) 9:30~11:30 13:00~15:30 1号館2階または2号館2階 所要時間:約30分(混雑時) ※4月4日(金)は入学式当日の為、 更新はできません。 | 4月2日(水)、3日(木)、 5日(土)、7日(月) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00 |
| 文学部 英米文学科 | 10:30 | | 11:00 | 930教室 | | | |
| 文学部 フランス文学科 | 12:30 | | 13:00 | 922教室 | | | |
| 文学部 日本文学科 | 10:30 | | 11:00 | 1173教室 | | | |
| 文学部 史学科 | 12:30 | | 13:00 | 920教室 | | | |
| 文学部 心理学科(昼間主) | 12:30 | 1143教室 | 13:00 | 1143教室 | 注1)参照 | | |
| 経済学部 | 9:30 | 9号館1階 | 注2)参照 | | | | |
| 法学部 | 9:30 | 4号館1階 | 11:00 | 420教室 | 10:00~11:00 始業伝達式 | | |
| 経営学部 | 12:45 | 9号館1階 | 13:15 | 910教室 | | | |
| 国際政治経済学部 | 12:45 | 6号館1階 | 13:15 | 621教室 | | | |
| 文学部 心理学科(夜間主) | 18:00 | 1143教室 | 18:30 | 1143教室 | 注1)参照 | 4月2日(水)16:30~19:00 4月3日(木)、5日(土)は第二部と同じ | |

注1)新3・4年生は、履修ガイダンス終了後「卒業研究」説明会を実施します。
注2)経済学部は、4月2日(水)に、新3・4年生共通で書類配布を行います。また、4月2日(水)に新3・4年生合同で履修ガイダンス(10:00、910教室、希望者)を実施します。

【第二部(夜間部)】4月3日(木)新3・4年生 4月5日(土)新2年生 (各学年とも留年者を含む、経済学部第二部は注3参照)

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス | 場所 | 学生証更新(1号館2階) | 健康診断(7号館2階音楽室) |
|--------------|--|----------------|--|-----------------|--|--|
| 文学部第二部 教育学科 | (新3・4年生)18:00~19:45 (新2年生)12:00~13:00 | 7号館1階 学生ロビー | (新4年生)18:30~19:30 | 1135教室 | 4月3日(木)17:00~20:00 4月5日(土)13:00~15:30 所要時間:約30分(混雑時) | 4月2日(水)、3日(木)、 5日(土)、7日(月) 9:00~11:00 13:00~15:00 17:00~19:00 |
| 文学部第二部 英米文学科 | | | (新3年生)19:45~20:45 (新2年生)13:00~14:00 | 1134教室 930教室 | | |
| 経営学部第二部 | | | 18:30~19:30 | 621教室 | | |
| 経済学部第二部 注3) | 18:00~19:45 | | | | | |

注3)経済学部第二部は、新2~4年生合同で、4月3日(木)に書類配布および履修ガイダンスを、また4月5日(土)12:00~13:00に書類配布のみを行います。

●教務課からのお知らせ

※履修ガイダンスの所要時間は30分~60分程度です。
※2008年度の編入学・転学・転学部・転学科生は「2008年度学年初頭行事案内(編入学・転学・転学部・転学科生)」を参照してください。

●学生部からのお知らせ(学生証更新について)

※学生証裏面の在籍確認シールは、毎年4月に更新となります。新しい在籍確認シールの交付を受け、現住所、大学から自宅までの通学区間をボールペンで記入後、各自で貼り直してください。
なお、更新時に学生証を紛失している場合は、あらかじめ学生部厚生課にて再交付の手続きを済ませてください。

※大学院生(青山キャンパス)は、大学院事務室または専門職大学院事務室掲示板を参照してください。

●保健管理センターからのお知らせ(健康診断について)(受診の義務:青山学院大学学生共通細則第9条)

※学年等により検査項目が異なります。
1:視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参してください。
2:女子はレントゲン検査のために、無地に近いシャツを着用もしくは持参してください。
3:健康診断を受診できなかった場合は、外部診療所へ行き自費で受診することになります。依頼書等がセンター窓口にあるので取りに来てください。健康診断未受診の場合、健康診断証明書は発行できません。(就職用・教育実習・介護等体験・奨学金・体育集中講義等に必要です。)
4:4年生は、受診前日までに検尿容器を7号館1階保健管理センターまで取りに来て、健診受診時に健診会場へ採尿済み容器を持参してください。
※学生健康診断について何か質問のある方は、直接保健管理センター窓口もしくは03-3409-7896にて確認してください。

相模原キャンパス

4月1日(火)新2年生(文・法) / 新3・4年生(理工) ☆は学生番号を表す

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス | 場所 | 学生証更新 | 奨学金募集説明会 | 健康診断(D棟) |
|--------------|-------|--------------|---------|--|-----------------------------------|--|--|
| 文学部2年生 英米文学科 | 13:30 | E棟1階 E105 | 14:00 | E101 | 13:00~16:30 更新場所: F307・F308 | 新規希望者 (ただし、学部生のみ) 10:00 E101・E102 | 4月2日(水)、 3日(木) 9:00~10:30 13:30~16:30 |
| 文学部2年生 史学科 | 13:30 | | 14:00 | E104 | | | |
| 文学部2年生 心理学科 | 13:30 | | 14:00 | E102 | | | |
| 法学部2年生 | 13:30 | E棟1階 E106 | 14:00 | E301(☆13107001~13107300) E302(☆13107301~最終番号および2006年度以前入学者) | | | |
| 理工学部3年生 | 10:00 | E棟2階 E206 | 10:30 | E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー) | | | |
| 理工学部4年生 | 14:00 | E棟2階 E206 | 14:30 | E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー) | | | |

4月2日(水)新2年生(文・理工) / 大学院(理工)

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス | 場所 | 学生証更新 | 奨学金募集説明会 | 健康診断(D棟) |
|----------------|-------|--------------|---------|--|---|--|--|
| 文学部2年生 教育学科 | 9:30 | E棟1階 E105 | 10:00 | E101 | 13:00~16:30 (ただし、理工学研究科1年生は 学生証の交付になります。) 更新場所: F307・F308 | 新規希望者 (ただし、理工学研究科のみ) 12:00 E201 | 4月2日(水)、 3日(木) 9:00~10:30 13:30~16:30 |
| 文学部2年生 フランス文学科 | 9:30 | | 10:00 | E104 | | | |
| 文学部2年生 日本文学科 | 9:30 | | 10:00 | E102 | | | |
| 理工学部2年生 | 10:00 | E棟2階 E206 | 10:30 | E201(物理・数理、化学・生命科、機械創造工) E202(電気電子工、経営システム工、情報テクノロジー) | | | |
| 理工学研究科 | 13:30 | E301前 | 14:00 | E301 | | | |

4月3日(木)新2年生(経済・経営・国際政治経済) ☆は学生番号を表す

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス | 場所 | 学生証更新 | 奨学金募集説明会 | 健康診断(D棟) |
|-------------|-------|--------------|---------|--|-----------------------------------|--|--|
| 経済学部2年生 | 12:30 | E棟1階 E106 | 13:00 | E101(☆12107001~12107330) E102(☆12107331~最終番号および2006年度以前入学者) | 13:00~16:30 更新場所: F307・F308 | 新規希望者 (ただし、学部生のみ) 10:00 E201・E202 | 4月2日(水)、 3日(木) 9:00~10:30 13:30~16:30 |
| 経営学部2年生 | 12:30 | E棟1階 E106 | 13:00 | E301(☆14107001~14107330) E302(☆14107331~最終番号および2006年度以前入学者) | | | |
| 国際政治経済学部2年生 | 9:30 | E棟1階 E106 | 10:00 | E301 | | | |

4月8日(火)文学部1年次留年生 注)履修ガイダンス開始前に同じ教室で「履修登録資料」の配布があります。

| 学部・学科 | 書類配布 | 場所 | 履修ガイダンス注) | 場所 | 学生証更新 | 健康診断(D棟) |
|---------|-------|--------------|-----------|------|---|--|
| 英米文学科 | 9:30 | E棟1階 E105 | 10:30 | E101 | 4月8日(火)以降、窓口事務取扱時間内に、 学生生活グループ(B棟1階)で行います。 | 4月7日(月)、 8日(火) 9:00~10:30 13:30~16:00 |
| 史学科 | 9:30 | | 10:30 | E103 | | |
| 心理学科 | 9:30 | | 10:30 | E104 | | |
| 教育学科 | 12:30 | | 13:30 | E102 | | |
| フランス文学科 | 12:30 | | 13:30 | E103 | | |
| 日本文学科 | 12:30 | | 13:30 | E104 | | |

※学年初頭の各行事および開始時間は上記のとおりです。各自あらかじめ計画して、指定の日時に出席してください。

※その他の行事については、学生ポータルの「初頭行事」を参照してください。

※履修ガイダンスの所要時間は60分程度です。

※健康診断の詳細は、学生ポータルの「初頭行事」または共通掲示板を参照してください。

※2年次編入学・転学部・転学科生も上記行事に参加してください。

なお、健康診断は4月7日(月)・8日(火)のいずれかで受診してください。

※健康診断を未受診の場合は外部(自費で約4000円)で受診することになり、証明書などの発行はできません。

卒業生へのメッセージ



卒業生の皆さんへ
校友会会長 原 進

今春、本学を卒業される学部生、研究生の皆さんに心からお祝い申し上げます。青山学院大学の卒業生は17万人を超えております。これらの多くの卒業生は国内のみならず、世界各地であらゆる分野において活躍されており、青山学院大学が高く評価されていることに貢献しております。これから卒業される皆さんにも大いに期待するところです。

さて、青山学院の卒業生は卒業と同時に「青山学院校友会」の正会員として迎えらるることになっており、心より歓迎申し上げます。

設立115年の歴史を持つ校友会は校友相互の親睦と母校との絆をつなぐため、また母校の発展に寄与するため、卒業生で組織されており、校友会活動を通じての諸先輩との交流は、皆さんの人生を豊かで有意義なものにしてくれると思います。

そして毎年9月に青山キャンパスで開催されます同窓祭に参加いただけますと、何年、何十年経ってもきっと青春の思い出が甦って来ることだろうと思います。

さて、校友会組織は皆さんが在籍した各学部、学科ごとの同窓会、体育会系、文化会系、ゼミ等のOB、OG会、その他あらゆる団体の参加する登録諸団体、そして国内56ヶ所、海外18ヶ所に地域の支部があり、卒業後、どこに行かれても校友会組織に加入することが可能です。複数加入も歓迎ですので是非ご参加されることをお勧めいたします。最後になりましたが、皆さんのご活躍と幸多き人生でありますようにお祈り申し上げます。

青山学院校友会センター 校友センター窓口案内

「青山学院校友会センター」は卒業生と母校青山学院とを結び窓口です。センターでは、同窓会、校友会の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介・取次をはじめ、「青山学院維持協力会」の入会受付、「青山学報」定期購読の申込受付、校友会集会所利用の申込受付、さらに校友向け情報誌「AOGAKU Chimes」の発行・発送など、さまざまな活動を展開。また、卒業生全員が会員となる「青山学院校友会」の本部事務も担当しています。これらの活動には卒業生の基本情報が不可欠です。個人情報の管理には最大限の注意を払っておりますので、住所・氏名等の変更がありましたら、必ず校友センターまでご連絡ください。

「AOGAKU Chimes」(あおがく チャイムズ)について

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を年1回発行しています。青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えること、積極的な情報発信を目的としております。最新号の第8号では、「21世紀の“青山キャンパス”へ」と題して青山キャンパス再開発についての特集。そのほか卒業生や教員へのインタビューや「青学オリジナルグッズ」など多彩な誌面作りを行っています。

本誌は青山学院と青山学院校友会の共同発行です。今後さらに誌面を充実させるためにも、卒業生の皆様のご感想・ご意見をお寄せください。



ホームページもご覧ください。 <http://www.alumni-aogaku.jp/>



卒業後の連絡先一覧

03-3409-8111 (代表・青山キャンパス)
042-759-6000 (代表・相模原キャンパス)

大学ホームページ
<http://www.aoyama.ac.jp>

| | 担当事務局 | お問い合わせ先 | 備考 |
|---|--------------------------------|---|--|
| 卒業・修了、成績証明書の交付 | 学務部教務課 | 03-3409-7830 | 人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む |
| | 学生支援ユニット学務グループ(※) | 042-759-6003 | 理工学部・理工学研究科対象 |
| | 大学院事務局 | 03-3409-7831 | 文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象 |
| | 専門職大学院事務局 | 03-3409-8025 | 国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象 |
| 科目等履修生案内 | 学務部教務課 | 03-3409-8047 | 人文・社会科学系学部対象 ※第二部(夜間部)を含む |
| | 学生支援ユニット学務グループ(※) | 042-759-6003 | 理工学部・理工学研究科対象 |
| | 学務部教職課程課 | 03-3409-9634 | |
| | 学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当) | 042-759-6032 | 教職課程対象 |
| 科目履修生案内 | 大学院事務局 | 03-3409-7831 | 文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象 |
| | 専門職大学院事務局 | 03-3409-8025 | 会計プロフェッション研究科対象 |
| 基礎資格及び単位修得証明書の交付 | 学務部教職課程課 | 03-3409-9634 | |
| | 学生支援ユニット学務グループ(※) (教職課程担当) | 042-759-6032 | 免許状授与証明書は、免許状の交付を受けた都道府県の教育委員会へお問い合わせください。 |
| 公開講座案内 | 庶務部庶務課(公開講座担当) | 03-3409-7955 | 3月上旬より「2008公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。 |
| 図書館の利用 | 図書部運用課閲覧係 | 03-3409-7858 | 卒業生の図書資料の貸出には、利用カードの申請が必要です。 |
| | 教育・学習支援ユニット図書グループ(※) | 042-759-6027 | http://www.agulin.aoyama.ac.jp/ |
| 大学院案内 | 大学院事務局 | 03-3409-7831 | 文学・経済学・法学・経営学・国際政治経済学・総合文化政策学研究科対象 |
| | 学生支援ユニット学務グループ(※) | ①042-759-6033 ②042-759-6072 | ①理工学研究科対象 ②社会情報学研究科対象 |
| 専門職大学院案内 | 専門職大学院事務局 | 03-3409-8025 | 国際マネジメント研究科・法務研究科・会計プロフェッション研究科対象 |
| キリスト教に関する相談(教会紹介など) | 宗教センター(ウェスレー・ホール1F) | 03-3409-6537 | |
| 住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部等連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付 | 青山学院校友会センター | 03-3409-6645 | 校友会ホームページ http://www.alumni-aogaku.jp/ |
| | 青山学院校友会本部 (アイビーホール青学会館2F) | 03-3409-9773 FAX 03-5485-3616 校友会集会所専用 03-3409-8628 | 校友センターホームページ http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html E-mail agkyou@jm.aoyama.ac.jp alumni@jm.aoyama.ac.jp |
| | | | 資料閲覧希望の場合は、早めに連絡してください。 http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/ |
| | | | 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の募集は、早めに連絡してください。 |
| 学院の歴史資料、メソジスト教会関係資料閲覧 | 資料センター | 03-3409-6742 | |
| 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」などの受付 | 募金事務局(法人本部3F) | 03-3409-6208 FAX 03-3409-3890 | 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」、スカラシップ制度へのご寄付、遺贈によるご寄付の申込受付。 |
| 大学同窓祭 | 大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレー・ホール3F) | TEL・FAX 共通 03-3409-8990(直通) ※月・水・金のみ | 今年も9月23日(火・祝)に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。 |
| 婚礼・会合施設 | フライダルサロン (アイビーホール青学会館内) | 03-3409-8181(代表) | 懇親会・同窓会・クラス会・OB会・アドグル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。 http://www.aogaku-kaikan.co.jp |

(※)相模原キャンパス

●AGUニュースのバックナンバーは、大学ホームページでご覧いただけます。

青山学院募金事務局からのお知らせ ～21世紀の総合学園創造に向けて～

青山学院は、2004年12月より「青山学院創立130周年記念」事業の一環として、「青山学院 EVERGREEN 21 募金」を募集中です。皆様のご協力をお願いいたします。なお、スカラシップ制度へのご寄付、遺贈によるご寄付も併せてご協力をお願いいたします。詳しくは、募金事務局へお問い合わせいただくか、学院ホームページ(<http://www.aoyamagakuin.jp>)をご覧ください。

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、無担保・低金利・在学期間中の元金返済措置等、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です(学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります)。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

【必要書類】

1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4. 年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合、青山キャンパス所属の学部生は学生課、院生は大学院事務室、専門職大学院生は専門職大学院事務室、相模原キャンパスの学部生・院生は学生生活グループへ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

【提携銀行】 (代表問合せ支店)

| | | |
|-----------|--------------|------------------|
| 三井住友銀行 | 渋谷支店お客様相談課 | TEL 03-3463-0101 |
| みずほ銀行 | 渋谷中央支店ローン担当係 | TEL 03-3462-0315 |
| りそな銀行 | 渋谷支店ローン担当係 | TEL 03-3498-3211 |
| 三菱東京UFJ銀行 | 青山支店お客様相談課 | TEL 03-3409-3211 |
| 横浜銀行 | ミニローンプラザ | TEL 045-225-2020 |

アドバイザー・グループに入ろう!

本学特有の課外活動で、アドバイザー・グループ(通称「アド・グル」と呼ばれています)の制度があります。このシステムは、教員がアドバイザーとして学生と人格的に交わることを中心に、教員と学生・学生相互が人生あるいは学問の先輩・後輩として、各種懇談会・読書会・見学旅行・ピクニック・ボランティア活動・各種スポーツ合宿などの諸活動を通して、物の見方・考え方、そして生き方を共に深く探求することを目的としています。

教室を離れ、アド・グルの教員を中心に集まった仲間と共に食べ、共に学び、人生を語ることはとても有意義なことです。在学中ばかりでなく、きっと卒業後にも交わりが深まり、一生を通して心高め合うことのできる価値ある出会いの場ともなります。

新入学生はもちろんのこと在校生も、有意義な“つながり”として、積極的に参加しましょう。アド・グルの参加は、1年毎の登録制度になっていますので、年度初頭に配布される「アドバイザー登録のしおり」を参照してください。

(学生部長 本郷 茂 記)

アドバイザー登録について

| | |
|-----------|--|
| アドバイザーの登録 | ・受付期間 2008年4月11日(金)～21日(月) ・受付場所 相模原キャンパス 学生生活グループ(B棟1階ステューデントセンター) 青山キャンパス 学生部学生課(1号館1階) |
|-----------|--|

| | |
|-----|---|
| その他 | ・アド・グルは、1年毎の登録制度になっています。 ・アドバイザーによっては、若干の条件や制限を設けている場合があります。 ・アドバイザーの選択は自由です。 |
|-----|---|

2007年度退職専任教員

2008年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です。(○印は定年退職される教員)

- 野里 房代 文学部 教育学科 教授
- 根本 治 文学部 英米文学科 教授
- 平野 隆文 文学部 フランス文学科 教授
- 武藤 元昭 文学部 日本文学科 教授
- 稲本 絵里 文学部 心理学科 助教
- 西村 洋一 文学部 心理学科 助教
- 山元 京子 経済学部 経済学科 助手
- 廣瀬 久允 法学部 教授
- 九頭見一士 経営学部 教授
- 三部 泰彦 理工学部 物理・数理学科 助手
- 御領 潤 理工学部 物理・数理学科 助教
- 小野 勲 理工学部 化学・生命科学科 教授
- 大極 光太 理工学部 化学・生命科学科 助教
- 柏木 浩光 理工学部 電気電子工学科 教授
- 松本 好太 理工学部 電気電子工学科 助手
- 安藤 豊 理工学部 電気電子工学科 助教
- 寺岡 喜和 理工学部 機械創造工学科 助手
- 松浦 健児 理工学部 機械創造工学科 理工学部講師
- 和田真由美 情報科学研究センター 助手
- 松田 岳士 ヒューマン・イノベーション研究センター 助手
- 井上 良二 会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻 教授
- 鈴木 幸一 会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻 教授

その他の月日をもって退職された教員

- 森屋健太郎 理工学部 情報テクノロジー学科 助教(2007.6.30 退職)
- 志田 敬介 理工学部 経営システム工学科 助教(2007.9.30 退職)

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。

下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2008年4月～5月)

- 航空部 久住山岳滑翔大会(5月)
- 硬式野球部 東都大学野球春季リーグ戦(4～5月)
- サッカー部 JR東日本カップ2008第82回関東大学サッカーリーグ戦(4～5月)
- 柔道部 東京キリスト教関係大学柔道大会(4月)
- 準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ戦(4～5月)
- 漕艇部 全日本軽量級選手権大会(5月)
- 卓球部 関東学生春季リーグ戦(5月)
- チアリーディング部 チアリーディングアジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ(5月)
- 軟式野球部 春季リーグ戦(4～5月)
- バスケットボール部男子 京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバル(5月)
第57回関東大学バスケットボール選手権大会(5月)
- 馬術部 東京都馬術選手権大会(4月)
- バドミントン部女子 関東学生バドミントン春季リーグ戦(4月)
- バレーボール部女子 春季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(4～5月)
- パワーリフティング部 第85回関東学生パワーリフティング大会(5月)
第35回全日本学生パワーリフティング大会(5月)
- フェンシング部 ジュニア・カデ世界選手権大会(4月)
- レスリング部 JOC杯ジュニアオリンピックカップ(4月)
ジャパンバレーリーグイーストカップ2008(4月)

主要活動報告(2007年12月～2008年3月)

- 軟式野球部 全日本大学軟式野球連盟主催 日華親善大学軟式野球国際大会
日本代表 牧野 洋介
- バスケットボール部男子 第59回全日本学生バスケットボール選手権大会 優勝
最優秀選手賞・アシスト王 広瀬 健太
優秀選手賞 熊谷 宜之
優秀選手賞 小林 高晃
- バドミントン部女子 平成19年度関東学生バドミントン新人選手権大会
シングルス 優勝 本間 ちさと
ダブルス 準優勝 中原 唯衣・本間 ちさと
- バレーボール部女子 平成19年度第60回秩父宮賜杯・第54回秩父宮賜杯
全日本バレーボール大学男女選手権大会 第3位
- フェンシング部 第15回JOCジュニア・オリンピック・カップ大会女子エペ 第4位 一柳 風未
- 陸上競技部 第84回箱根駅伝 関東学連選抜として出場第10区 横田 竜一
- レスリング部 天皇杯全日本選手権大会 3位 河野 隆太



稲積 宏誠
理工学部情報テクノロジー学科 教授

誌 上 公 開 講 座 No.41

青山スタンダード 情報スキルI:

学生同士が教え合う 全員参加型プログラムにチャレンジ

青山スタンダードが目指す教養教育とは？

とかく教育内容が問われるのは、英語であったり、理工系ならコンピュータ利用能力や数学であったりします。専門教育では、教員は何をどう教えていてもとやかく言われることはほとんどありませんが、誰でもわかる(わかった気になる)分野を学生に教えるのは、実に変です。「4年生になってこんなこともわからない、いったい何を教えてきたのか、〇〇は」と言われることにもなりかねません。教養教育の重要性和必要性を強調した青山スタンダード教育では、なおさらその内容が問われます。

2003年の青山スタンダード教育発足にあたり、「情報スキルI」では、本学の学生全員に一定の情報スキルを身につけてもらう、というスローガンを掲げました。教養や知識を支える技能として情報スキルは必要不可欠であり、単に就職に有利になるといった目先のことだけでなく、学生個々の土台となる技能を身につけさせたいというのが狙いです。約4,000人の新入生全員に「必修」として学んでもらうというこの取り組みは、全国的に見ても、正真正銘、大胆で困難なチャレンジでした。

以下、この科目のポイントをまとめます。

IT講習会：情報スキルIとしての授業はありません。情報スキルI合格の前提となる取り組みを総称してIT講習会と呼んでいます。IT講習会は、「自学自習」「講習会」「スキルチェック」という3つの柱から成っており、このスキルチェックに合格することを情報スキルIの合格基準としています。

自学自習：コンピュータの利用は、まず自分でやってみる、わかっている人からアドバイスを受ける、これを原則とします。学生にはオリジナルの教材を提供し、IT-Aと呼ばれるアシスタント学生を配置したPC教室を常時開放しています。

講習会：自学自習といっても、どのように学ぶかといった体系的なアドバイスは必要です。そのため、テーマを設定した講習会を不定期に開催しています。ここでも主力はIT-Aです。

スキルチェック：基本操作、ネチケット(ネットワークにおけるエチケット)、文書作成、表計算、プレゼンテーションについて基本スキルを身につけたかどうかの実技テストです。全面公開された問題と答えは自学自習の題材として提供され、自動採点によってチェックされます。

IT-A (IT-Assistant)：本学学生による情報アシスタント。面接と実技チェックにより選抜されています。自学自習PC教室での学生サポート、スキルチェック受検サポート、講習会運営等を行っています。200名規模のIT-Aグループを目指していますが、残念ながら現在は100名程度に留まっています。

この科目で課している内容はいたってオーソドックスですが、新入生全員に必修として課すことは、相当大きなチャレンジです。教材開発、IT-A教育、スキルチェックのレベルの策定までは教員スタッフが責任をもちますが、実際の学習現場は学生同士で進めていきます。つい1年前までは教えてもらっていた学生が、今度は自分の後輩にアドバイスをする立場となる、まさに学生全員参加型の新しい取り組みです。この取り組みは、専門教育とは異なった立場だからこそ意味のあるものではないかと考えています。

5年間の取り組みを踏まえた、今後の課題

どうやって「学ぼう」という気持ちを持ってもらうか：今や携帯電話でメール、日本語入力、インターネット検索は当たり前、通常PCで行う多くのことが携帯電話でも可能になっています。とくに勉強したわけでもないのに、皆上手に活用しています。コンピュータゲームしかり。習うより慣れるとはよく言ったもので、「やってみよう」「使ってみよう」「試してみよう」といった気にさえなってもらえれば大丈夫。そこをどう実現するかが、この取り組みの最大のポイントでしょう。また、情報スキルといったインフラを活用する土壌を教育全般に広げていくことが重要で、大学全体の教育力が問われることにもなります。それが遊離してしまったならば、こ

の取り組みは崩壊してしまうでしょう。

スキルレベル・合格レベルの設計と設定：高校教育で「情報」が必修科目となり、2006年にはそれを学んできた新入生を迎えました。ところが、驚いたことにそれ以前の入学生との差はほとんどありませんでした。高校での教育、社会の変化、コンピュータ(利用)技術の変化を見ながら、適切なレベル設計と評価基準の設定をしなければなりません。こうした適切な対応が、このシステムを維持するための必須条件です。

さて、非常に多くの学生が、このIT講習会・情報スキルIを経験し、人文・社会科学系学部の学生でもごく自然に取り組める内容であると評価してくれました。教えることが好きで、3・4年生がIT-Aとして相模原キャンパスにわざわざ来てくれるケースもあります。しかし、すべての学生から良い評価を受けているわけではありません。引き続き、この必修科目にとって適切な厳しさとはどのレベルなのかを考え、より学びやすく、やる気が起こるような環境やシステムを作り上げるために、努力を重ねなければなりません。これからも多くの意見や批判を受け止めながら、諦めることなく、この困難なチャレンジを続けていくことになります。最後に、IT講習会と情報スキルIを支えてくれている、多くの教職員と学生スタッフに感謝。

IT講習会Webページ
<http://acrp01.cc.aoyama.ac.jp/it/index.html>



2008年度 公開講座

本学では、大学での教育および研究の成果を広く社会に公開し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1990年より公開講座を開講しています。

本学公開講座は、テーマに基づき1シリーズ5講座で構成され、年齢や資格

青山キャンパス開講

「源氏物語」と古典文化（渋谷区教育委員会共催講座）

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 5月10日 ●物語史上の「源氏物語」
青山学院大学文学部日本文学教授 土方 洋一
 - 5月17日 ●「源氏物語絵巻」を読み解く
恵泉女学園大学人文学部日本語日本文学文化学教授 稲本 万里子
 - 5月24日 ●「源氏物語」表現の魅力
青山学院大学文学部日本文学教授 高田 祐彦
 - 5月31日 ●「源氏物語」と平安京
青山学院大学文学部史学教授 北村 優季
 - 6月7日 ●平安時代の言葉と現代の言葉
青山学院大学文学部日本文学教授 近藤 泰弘

女性のバイオニアたち

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 6月14日 ●画家として生きるといふこと
青山学院女子短期大学芸術学教授 淀井 彩子
 - 6月21日 ●幸田 延 — 演奏家・作曲家・音楽教師として —
玉川大学文学部比較文化学准教授 平高 典子
 - 6月28日 ●自然科学に貢献した女性たち
青山学院女子短期大学家政学教授 渡部 徳子
 - 7月5日 ●医師エリザベス・ブラックウェル — 近代医学と女性 —
青山学院女子短期大学英文学専任講師 荒木 純子
 - 7月12日 ●羽仁 もと子 — 「婦人之友」の創刊者 —
青山学院女子短期大学英文学教授 加納 孝代

仕事のプロを養成する:MBAエッセンス講座

- 毎週金曜日 19:00～20:30
- 10月3日 ●ビジネスエコノミクス
青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科教授 飯塚 敏晃
 - 10月10日 ●経営戦略
青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科准教授 牛島 辰男
 - 10月17日 ●ファイナンス
青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科教授 中里 宗敬
 - 10月24日 ●マーケティングとブランド戦略
青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科教授 松浦 祥子
 - 11月7日 ●人事戦略
青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科教授 須田 敏子

英語の諸相（渋谷区教育委員会共催講座）

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 10月4日 ●ビジネスの英語 — その特質と本質 —
青山学院大学経営学部教授 秋山 武清
 - 10月11日 ●科学技術の英語 — 大切な論理構成 —
早稲田大学名誉教授 篠田 義明
 - 10月18日 ●文学の英語 — 詩を中心に —
青山学院大学経営学部教授 佐藤 亨
 - 10月25日 ●世界の英語 — アジアの観点から —
青山学院大学国際政治経済学部教授 本名 信行
 - 11月8日 ●法律の英語
青山学院大学法学部教授 Givens, S.B.

キリスト教と文化

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 11月15日 ●キリスト教と絵画 — 聖書三題ばなし（エリヤ、キリスト、ペトロ） —
慶應義塾大学名誉教授 海津 忠雄
 - 11月22日 ●キリスト教信仰と文化類型 — キリスト教の文化的影響の五類型を巡って —
青山学院大学 大学宗教主任 総合文化政策学部教授 東方 敬信
 - 11月29日 ●キリスト教と音楽 — 言葉の継承・賛美歌のルーツとスピリチュアルへの流れ —
恵泉女学園大学非常勤講師 竹内 智子
 - 12月6日 ●キリスト教と文学 — D・H・ロレンスの小説を中心として —
青山学院大学経済学部教授 橋本 清一
 - 12月13日 ●キリスト教と日本教
青山学院大学総合文化政策学部教授 梅津 順一

による受講の制限はなく、どなたでも受講いただけます。

2008年度は、青山キャンパスにて5シリーズ（25講座）、相模原キャンパスにて4シリーズ（20講座）の計9シリーズ（45講座）を開講する予定です。

お問い合わせ先 青山学院大学 庶務部庶務課企画運営係（公開講座担当）
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL. 03-3409-7955（直通）
本学公開講座ホームページ <http://www.aoyama.ac.jp/extension/index.html>

相模原キャンパス開講

21世紀の国際関係と日米同盟

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 5月10日 ●アメリカの戦略と日米同盟の変容
— 21世紀の勢力均衡を考える —
青山学院大学国際政治経済学部教授 土山 貴男
 - 5月17日 ●イラク戦争収束過程とアメリカ「帝国」のゆくえ
— 帝国的政策の遺産と日米関係への影響 —
青山学院大学国際政治経済学部教授 山本 吉宣
 - 5月24日 ●加速するグローバル化と米欧亜
— 地域主義、ナショナリズムの抬頭と日本 —
青山学院大学国際政治経済学部教授 羽場 久美子
 - 5月31日 ●中国から見た日米同盟
青山学院大学国際政治経済学部教授 高木 誠一郎
 - 6月7日 ●日本の安全保障政策と日米同盟 — 脅威の多様化と国際秩序 —
青山学院大学国際政治経済学部教授 納家 政嗣

いよいよはじまる国民の司法参加

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 6月14日 ●裁判員はどう選ばれるか — ビデオで見る選任手続 —
最高裁判所事務総局刑事局総括参事官 平木 正洋
 - 6月21日 ●刑事裁判の準備はどう進められるか — 公判前整理手続での攻防 —
弁護士、青山学院大学専門職大学院法務研究科教授 高井 康行
 - 6月28日 ●裁判員の参加で何がかわるのか — 21世紀の裁判と社会 —
弁護士、早稲田大学大学院法務研究科教授 四宮 啓
 - 7月5日 ●国民の司法参加あれこれ — 比較法から見た司法参加制度 —
青山学院大学専門職大学院法務研究科教授 宮澤 節生
 - 7月12日 ●裁判員による裁判と被害者の参加 — 被害者参加人はなにを求めるか —
弁護士、青山学院大学専門職大学院法務研究科教授 新倉 修

新約聖書「福音書」のイエス

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 10月4日 ●福音書とは何か — 正典福音書とユダ福音書など —
青山学院大学 大学宗教主任 理工学部准教授 谷口 裕子
 - 10月11日 ●マルコ福音書のイエス
青山学院大学 大学宗教主任 理工学部准教授 谷口 裕子
 - 10月18日 ●マタイ福音書のイエス
青山学院大学 大学宗教主任 社会情報学部准教授 大宮 謙
 - 10月25日 ●ルカ福音書のイエス — 共に旅するイエス —
東京神学大学准教授 中野 実
 - 11月8日 ●ヨハネ福音書のイエス — 道・真理・命なるキリスト —
青山学院大学 大学宗教主任 経営学部准教授 高砂 民宣

これからの環境教育を考える（相模原市・座間市 市民大学 青山学院大学コース）

- 毎週土曜日 14:30～16:00
- 11月15日 ●環境経営と環境教育 — 環境問題機能体系図の作成と教育 —
青山学院大学理工学部准教授 松本 俊之
 - 11月22日 ●環境教育の事例 — ごみ分別ゲームとエコボリーゲームの開発と実施 —
青山学院大学理工学部准教授 松本 俊之
 - 11月29日 ●相模原キャンパスのエコ・環境について
日建設計総合研究所上席研究員 山村 真司
 - 12月6日 ●キャンパスの鳥は地域の鳥 — キャンパスから地域への発信 —
青山学院大学非常勤講師 村井 英紀
 - 12月13日 ●つくり育てるキャンパス — 教育と環境のためにキャンパスができること —
青山学院大学理工学部准教授 中田 恭子

各講座の一覧・申込方法などの詳細を掲載したガイドブックをご希望の方は上記までお問い合わせいただくか、本学ホームページよりお申し込みください。
※講師、講義テーマ等に変更が生じる場合があります。
※講師肩書きは、2008年4月1日時点の情報を掲載しています。

2008年度ペアレンツウィークエンド（旧 父母懇談会）

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者の皆様にお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

2008年度ペアレンツウィークエンドは6月頃からの開催を予定しており、対象の方には4月下旬以降にご案内いたします。また、ホームページでも随時、情報を更新してまいります。

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/index.html> 【お問い合わせ先】庶務部庶務課 TEL. 03-3409-8568

2008年度 一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験志願者数

2008年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験は、昼間部・第二部（夜間部）すべての出願が終了しました。一般入学試験の志願者数は、昼間部35,062名、第二部（夜間部）925名、合計35,987名（昨年度36,544名）となり、本年度新規に文学部のフランス文学科と史学科を加えて実施した大学入試センター利用入学試験の志願者は11,223名（昨年度9,006名）となりました。

なお、2008年度志願者数の詳細については、大学ホームページにて公開しています。



2008年度一般入学試験

2009年度より総合文化政策学部と社会情報学部で、「大学入試センター試験利用入学試験」を実施

本学では2009年度より、総合文化政策学部と社会情報学部で、新たに「大学入試センター試験利用入学試験」を実施いたします。実施教科・科目等の詳細については、大学ホームページをご覧ください。

●総合文化政策学部総合文化政策学科（前期日程）募集人員10名 ●社会情報学部社会情報学科（前期日程）募集人員20名／（後期日程）募集人員5名

2008年度オープンキャンパス等開催日程

オープンキャンパス（全学部対象）

予約不要・入退場自由

| | | |
|----------|-------------|-------------|
| 7/13(日) | 10:00～16:00 | 場所:相模原キャンパス |
| 7/20(日)※ | 10:00～17:00 | 場所:青山キャンパス |
| 9/14(日)※ | 10:00～16:00 | 場所:青山キャンパス |

※青山学院女子短期大学同日開催

社会人のための 大学・大学院説明会

7/26(土) 14:00～17:30 場所:青山キャンパス

本学への入学を希望する社会人等を対象に実施します。

詳細については、決定次第、大学ホームページにて随時お知らせします。

News Index 2007.12～2008.2

2007年12月上旬～2008年2月中旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

07年12月

- 2009（平成21）年度大学入試センター試験利用入学試験新規利用学部・学科について
- 本学サッカー部の田坂祐介選手と下地奨選手のJリーグ入団が内定しました
- 本学女子バレーボール部が平成19年度第54回全日本バレーボール大学選手権大会で3位入賞
- 本学男子バスケットボール部に、相模原市から「称賛の盾」が贈られました
- 本学陸上競技部 横田竜一君と先崎祐也君が、「第84回 東京箱根間往復大学駅伝競走」に関東学連選抜の選手として出場する予定です

- 小林保彦経営学部教授が、第27回（平成20年）「東京広告協会 白川忍賞」を受賞
- 第15回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会でフェンシング部の柳風未さん（文・1年）が、第4位に入賞
- 2008年4月開設予定「総合文化政策学研究科総合文化政策学専攻」の設置が了承されました
- 「青山学院スタイル」に、伊藤定良新学長が登場

08年2月

- 「第60回学生広告論文電通賞」にて、文学部心理学科の社会心理学研究会が大学生グループの部門で第1位、広告心理研究会が第2位に

08年1月

- 林光一理工学部（機械創造工学科）教授が、平成19年度日本燃焼学会論文賞を受賞

アドバイザーグループ紹介 15

野鳥観察から環境問題を考える 〈鳥アド・グル〉



理工学部
降旗 千恵 教授

「鳥アド・グル」は野鳥の観察（種類と数の計測）が主な活動テーマです。活動の中心は相模原キャンパスで、私と「野鳥の生態学」担当の村井英紀非常勤講師が共同で運営しています。

まずは基本となる双眼鏡の使い方と鳥の観察法から始めるので、誰でも気軽に参加できます。2007年度から春に相模原キャンパス内に巣箱をかけて（写真参照）、シジュウカラなどの繁殖を観察していますが、2008年4月からは「観察ノート」も作成。更なる取り組みをスタートさせます。

また、日曜日には高尾山、夏休みには八ヶ岳まで足をのばして「探鳥会」を行うなど、自然にふれあう機会も積極的に設けています。昨今世界規模で関心を持たれている「環境」の神髄を、野鳥の観察を窓口として自然に親しみ体感しながら考えていきます。



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課
事務取扱窓口
相模原キャンパス→学生部厚生課